

令和4年度(第1回)
サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)
今後の動向

エネルギーシステム分野に
おける立場から

サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)評価委員
東京工業大学 特命教授
柏木 孝夫

エネルギーシステム分野の応募と採択について

■ 当分野の応募と採択の件数

- 令和2年度(第1回): 応募なし
- 令和2年度(第2回): 応募1件 → 採択1件
- 令和3年度(第1回): 応募1件 → 採択1件
- 令和3年度(第2回): 応募2件 → 採択2件
- 令和4年度(第1回): 応募なし

- 応募件数は少ないものの、多様な省CO₂対策、防災性向上、複数棟におけるエネルギーマネジメント等の提案がなされ、波及性、普及性の観点から先導性を積極的に評価

今後の期待

- 電力と熱の両面からのシステム全体の最適化や脱炭素化、BCP対応
 - カーボンニュートラルの実現に向けた道筋を明示する取り組みの提案
- 周辺地域も含めたエネルギー利用の効率化やエネルギー需給バランス制御につながる提案
 - 新築を起点に周辺の既存建物の脱炭素や省エネ化、CO₂フリー電源の有効活用等に貢献する提案
 - エネルギーシステムだけでなく、建築的対策にも積極的に取り組む提案 など

令和4年度(第1回)
サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)
概評と今後の動向

省エネ建築・設備分野に
おける立場から

サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)評価委員
慶應義塾大学 教授
伊香賀 俊治

今回の応募と採択について

- 応募案件(当分野)は4件→3件を採択
(採択内訳:一般部門3件、中小規模建築物部門0件)
- 今回の応募案件の特徴
 - 大阪の大規模物流倉庫、岡山の庁舎建築物、新潟の研究施設の新築提案
 - 建築・設備計画において地域特性や建物特性を踏まえた多様な省エネ・省CO₂対策を取り入れたウェルネスオフィスの実現と省CO₂の両立
- 省CO₂技術の普及や地域や類似用途への波及性、普及性の観点から先導性を積極的に評価

採択案件の概評 <一般部門①>

GLP ALFALINK 茨木1プロジェクト

提案者：JDP3ロジスティック2特定目的会社

<概評>

- 地域の災害時拠点としても機能する環境に配慮した物流施設として、エネルギー・水の削減、EVコンセント、働く人のウェルネスにも配慮している等、大規模物流倉庫の脱炭素モデルとして評価した。
- 続けて整備される複数の倉庫にも同様の対策を導入し、エリア全体のエネルギー・マネジメントを行うことを期待する。また、導入効果の積極的な情報公開が展開され、波及・普及につながることを期待する。

採択案件の概評 <一般部門②>

岡山市新庁舎整備事業

提案者：岡山市

<概評>

- 延床面積が約5万m²でZEB Ready認証を目指しており、建築デザインとしての工夫、高効率設備の採用、非常時のエネルギー自立、ウェルネスオフィスへの対応等への意欲的な取り組みは、先導モデルになりうるものとして評価した。
- 地方都市のゼロカーボン化に向けた先導プロジェクトとなるよう、効果の検証結果等が広く情報発信され、民間建築物への波及・普及につながることを期待する。

採択案件の概評 <一般部門③>

株式会社有沢製作所新研究所計画

提案者：株式会社有沢製作所

<概評>

- 豪雪地帯における中小規模の研究施設として、自然エネルギーをうまく取り込んだ建築計画、雪冷熱の潜熱蓄熱、工場排熱の活用等、様々な省CO₂・ウェルネス対策が導入されており先導的と評価した。
- 雪冷熱蓄熱量が十分であるか、脱炭素やウェルネス効果など事後検証を行い、情報発信することを期待する。

今後の期待

- 採択事例の少ない地域の提案
- 過去の採択事例で提案された様々な省CO₂技術を上手く活用し、省CO₂の波及・普及につながる提案
- カーボンニュートラルの実現に向けた道筋を明示する取り組み、SDGsへの貢献につながる取り組み、省CO₂の実現とともに付加価値の増進につながる取り組みなど、多様な提案を期待

令和4年度(第1回)
サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)
概評と今後の動向

生産・住宅計画分野に
おける立場から

サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)評価委員
東京大学大学院 教授
清家 剛

今回の応募と採択について

<一般部門>

- 応募案件(当分野)は4件→2件を採択
(戸建住宅:4件→2件)
- 応募案件の特徴と評価
 - 沖縄を中心に気候風土に応じたZEH住宅の実現を目指す提案
 - 既存住宅の仕様や管理状況を把握している自社物件を対象に、着実に省CO₂技術を推進する仕組みの提案
 - プロジェクトが着実に実施されることで、住宅分野におけるゼロエネルギーや既存住宅の省エネ性能向上技術の波及・普及につながると評価

採択案件の概評① <一般部門>

ZEH-Okinawaプロジェクト

提案者：有限会社フロンティアーズ

<概評>

- 沖縄では少ないZEH住宅に取り組む意義は大きく、実験住宅や実施物件の実績データを活用し沖縄の気候風土に応じた取り組みをすることは、沖縄でも高性能な戸建住宅の波及・普及につながるものと評価した。
- 提案するZEH住宅の効果検証によって得られた知見が広く公開され、波及・普及につながることを期待する。

採択案件の概評② <一般部門>

空家を減らしサステナブルな住宅循環の実現 「リニューアルサイクル・カーボンマイナス住宅」

提案者:サンヨーホームズ株式会社

<概評>

- 取り組みが遅れている既存住宅の省エネ性能向上に対して、仕様及び管理状況を把握している自社物件を対象に、着実に省CO₂技術を推進していくという仕組みは、住宅ストックの環境性能向上という課題に対して先導的と評価した。
- 改修に取り組む仕組みについて事後評価がなされ、その成果と課題を広く情報発信することを期待する。

今後の期待

- 今後とも省エネ・省CO₂の対応が遅れている分野での底上げ、新たな価値の創出につながる工夫を盛り込んだ提案などを期待
 - 既存住宅や賃貸住宅等での省CO₂促進
 - まちづくり、コミュニティとしての取り組み促進
(マネジメント、シェアなど)
 - 省CO₂と健康性の増進、子育て・介護支援
 - 波及や普及につながる具体的な工夫、補助事業の実施後の効果や展開などを明確にした提案
(住まい手への訴求、作り手の技術力や営業力の向上等)